

第3学年2組 社会科学学習指導案

指導者 石垣 俊晴

- 1 単元名 かわってきた市の人々の暮らし
小単元名 昔の道具とくらしのへんか
- 2 小単元について

本単元は、学習指導要領の目標（2）「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」に該当する単元である。本小単元では、内容（5）「地域の人々の生活について、（中略）人々の生活の変化や人々の願いを考えるようにする。」を取り扱う。ここでは、地域の人々の生活の今昔の違いや変化、過去の生活における人々の生活の知恵を考えることができるようにすることをねらいとしている。

私たちの身の回りは、さまざまな「もの」で囲まれている。家電製品・生活品はもちろんのこと、近年では携帯電話に代表されるモバイル機器の普及によって、私たちは実に快適かつ多岐にわたる生活を送ることができている。スイッチ一つで、いろいろなことが解決しまうことも多く「ものの豊かさ」であふれる時代といってもよいだろう。しかし、多くの人々にとって、それら「ものの豊かさ」は、いわば当然の事象になっており、頼りすぎてしまっている側面がある。現代社会では、道具を使うことに対して、知恵や工夫を働かせることも少なくなっている。しかし、昔は道具が未発達な分、道具を使いこなすために技術が必要であった。技術を磨くため人々は知恵や工夫を働かせて努力を行い、その結果、器用に道具を使えるようになったのである。この知恵や工夫・努力こそが「人間としての豊かさ」であり、本単元において、児童が学習を通して獲得しなければならない大切な観点であると考えられる。

児童はこれまでに、学校のまわりの様子や市の様子について観察したり、調べたりする中で、土地の使われ方や地形の様子・主な公共施設の場所などについて学習している。校外学習では5月に学区探検、6月にはにんじん畑の観察、7月にはふるさと農園や千葉ポートタワー・千葉港めぐりと体験学習も行いながら現在に至っている。

児童にとって本小単元「昔の道具とくらしのへんか」は歴史学習の入り口にあたる。現時点での子ども達の昔に対するイメージは、貧弱である。知識や経験が少ないため、いろいろな物や時間軸が混ざってしまっている（実態調査参照）。よって、大人が学習で獲得したような時代のイメージや大まかな時代区分は、なされていないのが実情である。また、昔＝「つらい」「楽ではない」というイメージが強いように思われる。便利な道具に囲まれて生活を送っているためか、昔は、「不便でもものがない時代」という認識に陥りがちであり、指導を行っていく上で注意が必要である。幕張西小地区は、もともと埋立地で歴史もまだ浅い土地柄ということもあって、このことはより顕著に見られるのではないかと考える。

単元の導入では、昔の道具にふれさせる中で、当時の生活について興味をもつ（本時）ようにする。ここでは、いくつかの昔の道具を実際に見たり触ったりしながら、児童の意識が本単元に向くように心がけたい。そして、今後の学習に意欲を持って取り組めるようにするための手だてを講じていく。また、幕張西小学校にとってかかわりの深いゲストティーチャーを講師としてお招きし、昔の道具を体験する学習を行う。実際に昔の道具を使ってみることで、その道具に込められた人々の工夫や知恵について実感的に学ばせたい。学習のまとめでは、昔の道具や人々の暮らしについて調べたことを「絵巻物」という形でまとめるようにし、子どもたちにとって意欲が持続するような学習を進められるようにしていきたい。

以上の点を踏まえ、古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子について学習する中で人々の生活の変化や知恵や工夫について考えることのできる児童を育てていきたい。さらには、地域社会に対する誇りや愛情をもてる児童の育成につなげていきたい。

3 児童の実態（男子17名 女子14名 計31名）

① 社会科の学習は好きですか。

大好き	好き	嫌い	大嫌い		
7名	22名	2名	0名		
学習内容において好きな項目（複数回答可） <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; border:none;"> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習が好き（22名） ・学校探検が好き（11名） ・学区探検が好き（14名） ・教科書や本で調べることが好き（9名） </td> <td style="width:50%; border:none;"> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで調べることが好き（25名） ・地図を見て学習することが好き（7名） ・ノートにまとめることが好き（8名） </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習が好き（22名） ・学校探検が好き（11名） ・学区探検が好き（14名） ・教科書や本で調べることが好き（9名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで調べることが好き（25名） ・地図を見て学習することが好き（7名） ・ノートにまとめることが好き（8名）
<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習が好き（22名） ・学校探検が好き（11名） ・学区探検が好き（14名） ・教科書や本で調べることが好き（9名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで調べることが好き（25名） ・地図を見て学習することが好き（7名） ・ノートにまとめることが好き（8名） 				

② おじいちゃんやおばあちゃんから、昔についての話を聞いたことはありますか。

はい 16名

いいえ 15名

③ 昔のイメージについて

■参考となる回答

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| ・戦争（9名） | ・古い（2名） | ・田んぼ・畑・森（1名） |
| ・着物をきている（6名） | ・お城（2名） | ・一軒家（1名） |
| ・江戸時代（5名） | ・頭がよい（1名） | ・つまらない（1名） |
| ・貧乏（4名） | ・平和（1名） | ・忙しい（1名） |
| ・たいへん（2名） | ・人が優しい（1名） | ・厳しい（1名） |

④ 昔と聞いて、いつの時代を思い浮かべますか。

- ・自分が赤ちゃんのころ・・・13名
- ・親が子どものころ・・・3名
- ・おじいちゃん・おばあちゃんが子どものころ・・・4名
- ・おさむらいの時代・・・7名
- ・それより昔の時代・・・4名

⑤ 昔について知っていることを書きましょう。

■参考となる回答

- | | | |
|--------------|---------------|------------------|
| ・戦争があった（5名） | ・風車がある（2名） | ・服装が現在と違う（1名） |
| ・着物を着ている（3名） | ・木造の建物（2名） | ・お金が違う（1名） |
| ・江戸時代（2名） | ・木製品（2名） | ・白黒テレビ（1名） |
| ・原始時代（2名） | ・手作業（2名） | ・物々交換している（1名） |
| ・お城がある（2名） | ・床が畳である（1名） | ・発明・工夫していた（1名） |
| ・わらの家（2名） | ・くつが現在と違う（1名） | ・筆で文字をかいていた。（1名） |

⑤ 昔の道具について知っているものを書きましょう。

■分類した結果

○生活に関するもの ・かまど（7名） ・薪（5名） ・お釜（3名） ・お風呂（2名） ・井戸（2名） ・ストーブ（2名）	○産業に関するもの ・カマ（7名） ・わら（3名） ・臼（1名） ・杵（1名） ・脱穀機（1名）	○遊びに関するもの ・けん玉（5名） ・こま（4名） ・お手玉（3名） ・竹とんぼ（2名） ・竹馬（2名） ・ベーゴマ（2名）
○乗り物に関するもの ・自動車（1名） ・人力車（1名） ・馬車（1名） ・カヌー（1名）	○戦争に関するもの ・刀（9名） ・鎧（3名） ・兜（1名） ・爆弾（1名）	○その他 ・さすまた（1名） ・お琴（1名）

■考察

社会科が「大好き」「好き」と答えている児童はおよそ9割であった。社会科を好きだと答えている子の多くは、その理由として、実際に見たり聞いたりしながら観察・調査することのおもしろさをあげている。つまり、“体験する”ことにおいて「好き」だとする児童が多いといえるだろう。

昔のイメージについて調べたのが③である。子ども達の昔のイメージは、戦争・貧乏・たいへんなど否定的な見方の割合が高いように思える。学習を通して、これらのイメージが変容していきけるような手だてが必要になってくるだろう。

本学級の児童の半数は祖父母より、昔について話を聞いた経験がある（調査②）。しかしながら、現時点での子ども達の昔についての認識や理解はあいまいかつ貧弱である。（調査④⑤）このことは、本単元が歴史学習の入り口であるので、当然の結果であるといえる。ここで大切なことは本単元で、どの時代を「昔」としてとらえて学習を進めていくかということである。学習指導要領には、暮らしを取り扱う時期について、「地域の高齢者が子どものころ、父母が子どものころ」とある。よって、本単元では、上記の時期を「昔」ととらえ、共通理解する必要があるだろう。

昔の道具について調べたのが⑥である。やはり戦争に関わる道具の割合が高いが、ここでは取り扱わないようにしたい。本単元では、日常の生活と密着した道具を取り扱い、道具の移り変わりやそれに伴って変わってきた人々の生活の様子を学習するようにしたい。

4 単元の目標

○古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころのくらしの様子や、地域の人々のくらしの変化が人々の願いや知恵によるものであることを理解し、地域社会のよりよい発展を考えようとする。

○地域の人々のくらしの変化から学習問題を見だし、古い道具の使い方を教わったり、博物館などで昔のくらしを調べたりして年表にまとめるとともに、地域の人々のくらしの今昔の違いや変化、人々のくらしの知恵について考えたことを適切に表現する。

5 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	古くから残るくらしにかかわる道具やそれらを使っていたころのくらしの様子に関心をもち、見学や調査活動を通して地域の人々のくらしの変化について意欲的に調べるとともに、地域社会のよりよい発展を考えようとしている。
社会的な思考・判断・表現	地域の人々のくらしの変化について学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、古い道具を使っていたころと今とのくらしの違いや変化、人々のくらしの知恵を考え、適切に表現している。
観察・資料活用の技能	古い道具の使い方を体験したり、博物館などで昔のくらしの様子を見学したりして、地域の人々のくらしの変化について必要な情報を集めて調べ、年表や白地図、作品などにまとめている。
社会的事象についての知識・理解	古くから残るくらしにかかわる道具、それらを使っていたころのくらしの様子や、地域の人々のくらしの変化や向上が人々の願いや知恵によるものであることを理解している。

6 指導計画

小単元 古い道具と昔のくらし

	時	学習活動と内容	教師の支援	評価の仕方
つかむ	1	○昔の道具に触れ、当時の生活について、学習課題を持つ。 (本時)	○昔の道具に実際にふれてみたり、使ってみたりできるような場の設定をおこなう。 ○洗濯板の使い方について、自分とゲストティーチャーを比べながら考えるようにする。	○昔のくらしに興味をもつことができる。(関心・意欲)
	古い道具を使っていたころのくらしについて調べよう。			
しらべる	2 3	○古いものさがしを行い、昔の道具について調べる。	○「昔の部屋」を設定し、たくさんの道具と触れあえる場の設定をおこなう。 ○道具について、使い方の予想や疑問について考えるなど、調べる視点を与える。	○古い道具に関心をもち、意欲的に古いもの探しをおこなっている。(関心・意欲)
	4	○古い道具の使い方について、ゲストティーチャーから説明を聞く。	○知りたいことは何かをはっきりと確認させた上で説明を聞いたり、質問したりするよう支援する。	○聞く観点をもって、説明を聞いたり、質問したりしている。(観察・技能)
	5 6	○古い道具を使ってみる。 ○古い道具を使ってわかったことや感じたことを話し合う。	○体験を実りのあるものにするために、活動する際の観点を与える。 ○ゲストティーチャーに質問し	○昔の道具の使い方やそれを使っていたころの生活の様子を理解している。(知識・理解)

			ながら体験するよう促す。	
	7 8	○昔のくらしの絵をみて、わかったことをノートに書く。 ○昔と今のくらしのうつりかわりについて調べる。	○必要に応じて絵のどこを見ればよいか助言をおこなう。 ○道具の使い方だけでなく、移り変わりにも関心を持たせるようにする。	○資料を活用して調べる中で、昔と現在の道具の違いから生活の違いを考え、ノートにまとめることができる。(技能)
ま と め る	9 10	○昔の道具と生活の変化の様子を絵巻物としてまとめる。	○できあがった絵巻物をいくつか用意し、それらを参考にさせながら調べたことをまとめていく。	○同じ用途の道具を古い順に並べ、道具の移り変わりを絵巻物に表すことができる。(技能)
	11	○絵巻物をみて、わかったことや考えたことを話しあう。	○道具やくらしの変化に、人々の知恵や願いが詰まっていることに着目させる。	○昔の道具を使っていたころの生活の様子・よさ、人々の知恵について正しい認識に基づいた考えを持っている。(思考・判断)

7. 市教研の研究主題との関連

社会の形成者としての主体的に判断し行動できる力を育てる社会科のあり方

本年度主題解明のための方策（市教研社会科部会研究計画案より）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。 ② 児童生徒に調べ方や学び方を習得させる指導と評価のあり方を明らかにする。 ③ 基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導と評価のあり方を明らかにする。 ④ 児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。 ⑤ よりよい社会を築こうという意思をもって行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。 |
|---|

本単元では、以下の項目について意識しながら重点的に取り組んでいきたい。

- | |
|---------------------------------------|
| ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。 |
|---------------------------------------|

昔の道具やくらしの移り変わりについて与えられた教材を使って調べまとめるだけでは、意欲の高揚にはつながっていかない。そこで本単元では、学習意欲を持続させて取り組むことができる課題設定と活動の充実を図り、児童の意識が「昔」に向き、課題を主体的に追求できるような学習活動の工夫を行っていきたい。

< 『本物』にふれる場の設定を工夫する。 >

学習を“つかむ”段階では、いくつかの昔の道具を準備し、実際にそれらに触れたり、体験させて考えさせたりしながら学習を進めていく。昔の道具は、実際に使用されていたものを準備し取り組む。本物の道具を用意して取り組むことのよさは、子ども達にとってそれら昔の道具が身近に感じられるということにある。例えば、洗濯板を取り上げた場合、写真資料では感じることはできない質感(繰り返し使用されているため、色が褪せており、板がすり減っている)に触れることができると考える。学習の導入で、昔を垣間見れるよ

うな工夫を取り入れることで、教科書や紙資料からでは味わうことのできない新鮮さやインパクトをもたらせるようにしたい。

加えて、本単元を通して「石毛千栄子さん（元幕張西小学校教諭）」をゲストティーチャーとして招き、ご協力いただく。石毛さんは洗濯板を使用していた世代の方である。学習を通じてふれあう中で、石毛さんは子どもたちにとって「昔のくらしを経験した先人」として目に映るのであろう。石毛さんには、当時の生活の様子についての紹介だけに留まらず、実際に洗濯板を使って靴下を洗う実演や七輪の使い方についてのアドバイスもしていただく。単元を通じて、“昔のスペシャリスト”として本学級児童に寄り添っていただくことで、子ども達は当時の人々の生き方に触れることができるのではないかと考える。そのような経験を今後も繰り返し行っていくことによって、最終的には、『地域社会に対する誇りと愛情を育てる』（第3学年及び第4学年の目標）ことにつながっていきけるようにしたい。

<体験活動の充実>

「七輪での火起こし」や「洗濯板を使った洗濯」など体験活動の場を設定する。実態調査の結果から、子ども達は、体験活動が大好きである。マッチすら握ったことすらない子どもが多い中での火起こしは貴重な体験で、魅力ある活動になると考える。また、ここでは単なる楽しい活動だけで終わらないように、学びの観点を意識させて取り組ませていく。「道具をよりうまく使うためにはどうすればよいか」「どうしてうまくいかなかったのか」「ゲストティーチャーと自分達とでは、どこが違ったのか」というふうに、観点をしっかり意識させながら取り組ませることにより、昔の人の知恵や工夫に気づかせていきたい。

<学習したことを巻物としてまとめる>

昔と今のくらしの移り変わりについて調べまとめる際には、児童にあらかじめ“巻物作り”を行うことを知らせておく。本単元においては、昔から存在する巻物でまとめることは模造紙などでまとめることよりも有効な手段であると考え。ここでは、自分の気づきを取り入れながら、時代の移り変わりとともに、人々のくらしや道具も移り変わっていく様子が見えるような、時間の流れのわかるまとめ方を心がけたい。巻物づくりを行うことで、児童は楽しみながら学習のまとめを行うことができるだろう。この「楽しみ」という感覚こそが学習意欲を高めしてくれる要素の一つであるように思う。学習が終わっても大切に保管しておきたくなるような作品づくりをこころがけたい。

<郷土資料室の充実>

本学級の廊下をはさんで向かい側には、郷土資料室があり、さまざまな昔の道具がある。そこで、この郷土資料室のあり方を見直し、学習に合わせた形で整備を行う。見せ方の工夫を行い、昔の道具に触れる機会をたくさんつくれば、充実した学習を維持できるのではないかと考える。道具を展示する際には、「生活用具」「農耕具」「遊び道具」などにわけ、見やすくわかりやすい展示を心がけたい。また、子ども達が調べまとめたことを紹介文として掲示し、「学習のあしあと」として残したい。

③児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。

「昔＝不便・大変そう」という見方は裏を返せば、「(だからこそ)人々は知恵や工夫を働かせて生活していた」という見方としてとらえることもできる。このように、本単元では、一つの見方にとらわれることなく、いろいろな側面から物事をとらえて学習を行っていく必要があると考える。

本単元では、七輪で物を燃やす学習を取り入れるが、この体験学習は児童の多面的・多角的な思考力を高めていく上で有効な手立てであると考え。児童は始め、火をつけることの大変さやむずかしさ・面倒さの側面に目がいってしまうと予想される。ここで、活動がストップしてしまえば、昔に対して否定的な印象だけを残して学習が終わってしまう。

そうならないようにするためにも、教師は多面的な見方をもって学習に臨むようにする。手だてとして、

昔の人々の知恵や工夫に気づけるような計画的な言葉がけや発問を心がけたり、仲間同士での話し合いやふり返りの場を充実させたりしたい。これらの活動を通して、手際良く火をつけていく昔の人々の知恵や工夫の視点にもライトをあて、昔の人々の知恵や工夫にも目を向けられるようにしていきたい。

8. 本時の指導

(1) 本時の目標

○昔の道具にふれ、今の道具と比べることで、当時の人々の生活について興味をもったり、学習課題をもったりすることができる。

(2) 展開

時配	学習内容と活動<・子どもの姿>	指導上の留意点 <☆評価>	資料
導入 5分	1. 昔の道具（洗濯板）にふれ、単元について興味を持つ。 ・かたくてごつごつしているよ。 ・どうやって使うのかな。 ・洗濯板を使ってみたいな！	○洗濯板は、昔実際に使われていたものを登場させる。 ○興味をひくような、登場の仕方の工夫をする。	
展開 10分	2. 昔の道具を体験する。 ・使い方がわからないよ。 ・汚れが落ちないな。 ・水がつめたいよ。	○道具の質感に触れさせながら、その道具がどのように使うのか想像できるようにする。 ○洗濯板を使って、自由に考えさせながら汚れた雑巾を洗うようにする。 ○子どもたち一人一人に体験できるようにする。	洗濯板 たらい 石鹸 雑巾 靴下
10分	3. 洗濯板の使い方をゲストティーチャーより教わる。 ・洗いが上手だな。 ・(自分と比べて) 洗うのが素早いな。 ・よごれがきれいに落ちているよ。	○現在使われている物（全自動洗濯機）と比較なしがら活動を進める。 ○ゲストティーチャーに洗濯の実演をしていただく。 ○自分の洗い方との違いについて考えながら見るように助言する。	
10分	4. ゲストティーチャーに当時の人々の生活について質問する。 ・洗濯板一枚でいろいろなものを洗っていたのですか。 ・一回の洗濯にどれだけ時間がかかったのですか。 ・子どもの頃のお話を聞きたいな。	○洗濯板以外の昔の道具や当時の人々のくらしについても目を向けさせるようにする。	
まとめ 10分	5. 当時の人々の生活について学習課題を持つ。 ・他にどのような道具があったのかな。 ・他の昔の道具を使ったみたいな。 ・昔の人々の生活は、どのようなものだったのか調べたい。	○児童の質問や意見をふくらませたり、問いかけをおこなったりしていきながら学習を深めていく。 ☆昔の道具やくらしについて調べてみたいことをワークシートに書いている。	(七輪)

古い道具を使っていたころの暮らしについてしらべよう。

6. 「昔の部屋」に行って古いものさがしをする
ことを知らせ次時につなげる。